

# 人生の転機と、挑戦する心

やおおしろいちろう  
八幡浜市長(愛媛県) 大城一郎



## 大型二種免許の取得

人生を振り返ると、いくつもの転機があったように思います。

それは必ずしも人生を揺るがすような大きな出来事ばかりではありません。むしろ、日々の中でふとした出来事や、何気ない経験こそが、心の奥に静かに残り、長い年月を経て自分を支えてくれる宝物のようなものになっているのではないのでしょうか。

私は子どもの頃から車が好きでした。運転免許を取るとすぐに、4tトラックを運転し、木材市場から原木を満載して製材業の手伝いをしていました。若い頃からトラックを運転して働いた経験は、私にとって自信にもなりました。

やがて大型自動車免許を取得するとき、「どうせなら二種免許に挑戦してみよう」と思い立ちました。もし市長選挙に落選しても、バス運転手という道もある。そんな思いもありました。

ところが、トラックには慣れていて私も、バスの運転席に座った瞬間に戸惑いました。サイドミラーには四輪全てが映り、しかも前輪よりも前に運転席があります。車両感覚がまるで違うのです。

とりわけ難しかったのが教習コースのクランクでした。普通車でも難セクションですが、バスではその難しさが何倍にも感じました。ポールにぶつからないようにとそ

こばかり気にしていると、ハンドルを切り損ね思うように曲がれません。

何度も失敗を重ねながら、対処法を考え続けました。

あるとき、最初のコーナーに入る前に、バスを右側の側溝ぎりぎりまで寄せてから進入することを意識しました。するとコーナーへの入り方が自然と整い、それに倣い次のコーナーに対しては左の前後輪を左側縁石に合わせるだけで、驚くほどきれいにクリアすることができたのです。

その瞬間、私は一つの大切なことに気づきました。

目の前の障害ばかりを見ていると、自分の位置が見えなくなる。しかし、少し視野を広げて全体を見渡し、準備を整えてから進めば、道は自然と開けていく。

それは単なる運転のコツではなく、人生にも通じる教えのように感じました。

そうした努力の積み重ねの末、二種免許の一発試験にも無事合格することができました。結果としてバス運転手になることはありませんでしたが、その経験は私に、交通ルールだけでなく、物事の見方や準備の大切さなど、多くのことを教えてくれました。

## ヨガからバレエ

もう一つ、私の生活の中で大切にしている習慣があります。それが朝ヨガ、「太陽礼拝」です。

きっかけはコロナ禍でした。人と人の距離が遠くなり、世の中全体がどこか閉塞感に包まれていた時期、たまたま立ち寄った本屋でヨガの本が目に入りました。「この本を買いなさい」と呼ばれているような気がして手にしました。

それ以来、YouTubeを参考に、自分なりの形で続けています。呼吸を大切にするとヨガを朝一番に行くと、心と体がゆっくりと目覚めていくように感じます。まるで一日のスタートスイッチが静かに入るようです。

そんな折、妻が指導しているバレエ教室の70周年記念リサイタルの話が持ち上がり



愛用のヨガマットで柔軟



ヨガのおかげで肩回りも柔らかくなりました



バレエ出演者の皆さんとの記念写真

「 Coppelia 」 に人形役で出演

ました。昭和28年、まだ戦後の混乱が残る時代に、愛媛県の八幡浜市で始まり、長い年月をかけて地域の文化を育て、子どもたちの成長を支えてきた歴史ある教室です。その記念すべき舞台に、私も出演することになりました。

演目は「 Coppelia 」。私の役は、人形です。第2幕では約20分間、舞台に出続けながらほとんど動かずに座っていなければなりません。そして音楽のタイミングで突然、人形が動き出します。

この「動かない」ことが、実はとても難しいのです。

団員の小学生たちから人形らしい動き方を教えてもらい、何度も稽古を重ねました。バレエの基本姿勢や足のポジションも初めて学び、最後のコーデ\*では子どもたちから足の運びをみっちり指南されたところ\*です。

そして迎えた本番の日。

不思議なことに、その日の舞台では初めてきれいに踊り切ることができました。カーテンコールが終わり、幕がゆっくりと下りていくその瞬間、出演者だけでなく、舞台を支えたスタッフも含めて、全ての人の心が一つになりました。

\*物語の最後を締めくくるフラインクダンス

そのとき舞台袖から、先生がこう声をかけてくださいました。

「市長も、ちゃんと踊れてたじゃない。」

その何気ない一言が、とてもうれしく、今でも心に残っています。人の心を動かすのは、こうしたさりげない言葉なのだと改めて感じました。

### そして弓道

最近では、地域に弓道場を建設する取り組みにも関わりました。弓道は、他のスポーツのように気軽にできる場所がありません。しかし地元の高校で、部員が最も多い部活動は弓道部です。地域の中で誰もが弓を引ける場所を造りたい。その思いで取り組みました。

弓道教室を開催すると、予想をはるかに上回る応募があり、募集人数の3倍もの希望者が集まりました。私自身も「六十の手

習い」として弓道を始め、忙しい中で時間を調整しながら練習を重ねました。

段級審査にも挑戦し、緊張の中で臨んだ試験でしたが、なんとか2級の認定をいただきました。新しい挑戦の喜びを、弓道仲間と分かち合うことができた瞬間でした。

人生では、まず目標を立て、自分から一歩を踏み出すことが大切なのだと思います。時には高く厚い壁が立ちはだかることもあります。しかし踏ん張り、押し続けていけば、その壁はやがて未来へ続く扉に変わるのではないのでしょうか。

人生の転機とは、特別な出来事の中にあるのではなく、挑戦し続ける日々の中に生まれるものかもしれません。

だからこそこれからも、新しい一歩を恐れずに踏み出しながら、人生を楽しんで歩んでいきたいと思っています。



弓道の段級審査の様子



地域の伝統行事「百矢祭」にも袴姿で参加